

■ 発言要旨

No.	上段(質問等) / 下段(回答)
	<p>窪川・大正・十和地域それぞれに1小1中をとのことでしたが、川口小が統合するとすれば北ノ川小としかないとします。しかし、エリアを3つに分ける。陸上記録会にしても水泳記録会にしても、四万十町になって10年経ちますが、まだ旧町村単位で考えることがどうなのかなと思います。地域の特色といえばそうなのかもしれません、せつかく四万十町になったのにどうして一つにならないのかなという素朴な疑問があります。垣根がなくなれば、北ノ川小と統合という案もでるだろうと思うんですけど、現状、川口の子どもたちは、北ノ川へソフトへ行って繋がりもあって、逆に言えば田野々と北ノ川が繋がりがあるかといえば、陸上記録会等しかないのではないかと思います。普段、親御さんの生活圏内でいっても北ノ川から窪川へ買い物にしてもなんにしても多くなるので、今後の方針として北ノ川と川口の統合はありますか。</p> <p>自分たちが子どものときから複式学級はあって、私たちのときに統合となったのが家地川小、丸山小、口神ノ川小、若井川小、志和小です。</p> <p>子ども同士の繋がりがあれば良いのですが、ないまま統合となると実際耳にするのは不登校になったケースもあったようです。当初の素案では、窪川地区の学校は窪川小へという案であったと思います。それであれば、小規模校の何校かから窪川小へ統合となって、同じような状況のお子さんもおられるかと思いますが、現計画でみると、川口小と窪川小が先に統合すると思いますので、そうすると不安です。</p>
1	<p>町村合併をして10年以上経過して、言われることはその通りであると思います。四万十町は非常に細長い町で、淡路島より少し大きい、琵琶湖より少し小さい、東京23区とほぼ同じで、広さはありますが同時に細長さもあるところです。推進本部会の中で話をする中でもそうでしたが、審議会の中でも話をする中で、一気に窪川は人数的に小学校、中学校ともにいるかなと思いますが、大正・十和については非常に厳しいような人数になってくるだろうと、窪川も一緒ではありますが。そういった中で、十和と大正を一緒にするという考えもあるのではないかと、先ほど言われたように北ノ川は、仕事の都合で窪川へ来られている方がトンネル越したらすぐ窪川ですので近さで見ても近いですよ。そういうご意見も他の地区でも出ておりました。話をしている中においては、一気に大正と十和を統合とかいうことにはならないだろうと、しっかりと旧の町村単位では特色を活かした地域性を活かした取組もされておりますので、十和は十和で1小1中は残さなければならない。大正についても1小1中は残さなければならない。</p> <p>窪川についても1小1中というところではありますが、望ましい児童生徒数でみると東又小が令和3年度もそうですが、令和6年度以降も望ましい規模を満たしていける推計があります。仁井田地区と松葉川地区については、非常に悩ましい人数です。それぞれの地区で望ましい規模を満たしていけるようであれば1校は残すということですが、状況を見る必要があるだろうということで但し書きの表現としております。</p> <p>16ページを見ていただきますと、表が2つありまして、上の表が中学校、下の表が小学校です。小学校の表で、田野々小と北ノ川小を見ていただきますと、令和3年度の推計値ですが45名と23名となっており、合計68名となります。小学校の望ましい児童数でいうと60名を越しておる状態です。ここで、北ノ川小がここからいなくなると望ましい規模が維持できなくなることとなります。やはり、地域性、旧の町村のそういったところを大事にしていく必要もあるのではないかとということも考慮して、令和6年度の推計値もみていただきますと、田野々小と北ノ川小を統合すると71名となります。71名ということになりますと大正地域においても1小学校は残せるであろうと、同様に十川小・昭和小も73名ということで残せるであろうという規模、東又小と興津小を統合した場合も75名ということで似たような規模の学校となります。</p>
2	<p>不登校の児童生徒数は分かりますか。</p> <p>本日は資料を持ってきておりませんが、数人はおりますね。</p>
3	<p>不登校も、現状の課題の中にある、教職員の心の余裕の無さも関係あるのかなと思ひて質問したところでした。</p> <p>大人数の学校だけではなくて、いろいろなお子さんの個々の問題等もあり、一概に大規模になったから不登校になったとは決めつけにくいところです。小規模な学校で育ったお子さんが大きな規模の学校へ進学したらカルチャーショックといいますか、そういったことを受けるかもしれません。なかなか分析も難しいところです。</p>
	<p>統合した時にどういう状況になったというデータはありますか。</p>

No.	上段(質問等) / 下段(回答)
4	<p>統合になったタイミングでの不登校等については、調べてみないと分かりません。小規模校から窪川中へ進学した際に馴染めないお子さんもいらっしゃるかも知れません。</p>
5	<p>例えばですが、学校が減ることによって、学校に行けない子どもの受け皿について議論はありましたか。</p> <p>子どもたちが行ける場所、窪川地域でいえば窪川中の道を挟んで向かいの建物が教育支援センターがありまして、学校へは行けないけれどもそこへなら行けるお子さんの対応をしております。学校へ行って保健室にいることもできますが、学校へ行けないお子さんについては、そういったところでの対応を行っております。</p> <p>それと教育研究所にSSW(スクールソーシャルワーカー)という専門性を持たれた方であるとか、教育の指導員さんは教育支援センターに行っております。相談員という方もいます。そういう体制の中で、また学校の方でも連絡を取りながら、子どもたちの状況も見ながら、不登校のお子さんの対応や対策をしております。</p> <p>家から外へ出られないお子さんがいましたら、家庭訪問して状況を確認してというようなこともしております。</p> <p>志和小、口神ノ川小、若井川小、丸山小、家地川小、大奈路小が統合した際に児童向け・保護者向けのアンケートを実施しております。アンケート項目が多岐に渡りますので全ての紹介はできませんが、抜粋して紹介いたします。</p> <p>「学校が変わったことについて、どう思っていますか」ということで、児童向けのアンケートですが、約7割が「良かった」「まあまあ良かった」となっております。「あまり良くなかった」「良くなかった」が3割ほどあります。</p> <p>保護者向けのアンケートでは、上記質問への回答が、「良かった」「まあまあ良かった」が約9割、「あまり良くなかった」「良くなかった」が約1割という結果が出ております。</p> <p>具体的にどのような点が?ということは、このアンケートからは読み取れないですが、一つ結果としてあります。</p> <p>それと、保護者向けアンケートでは、「お子様は新しい学校に慣れたと思いますか」の質問には、「すぐに慣れた」「慣れるのに少し時間がかかった」という方が9割強おりました。「慣れない所もある」という方が1割切るくらい、「今も慣れない」という回答をした方はおりませんでした。</p> <p>保護者目線では、郷に入らずんば…じゃないですが、子どもは環境に慣れてくるということが言えるのではないかと思います。</p>
6	<p>この計画は統合するという案ですよね。統合が確定するのは一番早くていつですか。</p> <p>19ページです。令和3年5月の児童数をもって判断します。その時に適正規模を満たしていない場合、川口小でいえば窪川小と再編ということです。実際に統合するのは令和6年ですので、それまでの期間に川口小と窪川小の児童の交流を行って、子どもがすんなりと統合できるような、PTAも同じかと思いますが、新しい学校をつくるイメージで取り組むようになると思います。</p>
	<p>この統合というのは確定と考えていい案件だと思うんですね。ここだけではなくて、全国的に少子化ですので、避けて通れないのは分かるのですが、そのために統合した時にスムーズに馴染むというか、そのための先生側の施策が必要だと思います。</p> <p>上の子どもが川口小でお世話になっていた頃に、他の学校の子どもたちと交流をして宿泊学習みたいなのがあったんですね。ところが今はもうないと。中学校に進学する際に顔見知りがあるのでスムーズに進学できて、ある程度の絆ができて、少人数の小学校から進学してきてもある程度対応できる。それでもお子さんによっては、うまく馴染めなくてというお子さんもいるかもしれませんが、そういう手立てがあつた時あったなと思います。最近、そういうのが無くなって、統合するということは分かりませんが、もっと大事なのが子供たちがスムーズに一つの集団になることだと思います。是非、ああいう取組を先生方に各学校でやっていただけないかなと、たくさんああいうことがあれば、陸上記録会ももちろん大事ですが、宿泊学習や、少人数で行く修学旅行、それ以外にももうちょっと欲しいのかなと感じています。そういったことが小規模学校の小回りによって対応できないかなと思います。統合する前の前段階のところを是非手当をしていただくと保護者は安心します。</p>

No.	上段(質問等) / 下段(回答)
7	<p>窪川中では1年生が幡多青少年の家で宿泊体験をしまして、新しく学校に来た生徒の状況が和らいでいったことがありまして、現在もその取組を継続しています。初めて顔を見る子ども同士は緊張もしますし、非常に良い取組ということで何年間か継続しております。</p> <p>説明会については、今回で終わりではありません。令和3年5月というところで、ひとつ基準を設けておりますが、そこで将来推計も見て、窪川小と統合ということになれば、先ほどのご意見も含めて、どういう交流を行っていくかをお話しながら、確認も保護者の方としながら進めて参りたいと思います。</p> <p>修学旅行も他の学校と合同で行っておりますし、陸上記録会やいろいろ交流できる機会がありますが、そういったところは大切に考えていかなければならないと思います。小学校も含め検討させていただきます。</p> <p>川口小を卒業して窪川中に進学した際には、昨年度の例でいうと6名が卒業して、その6名が全員同じ学級に配置となって、1年間を過ごしたということがあります。そういった取組は例年行っていて、中学校生活に慣れるような体制も取っておりますし、窪川地域全体で、小小の連携、また小中の連携教育ということで、いろいろな教職員がメンバーとなって研究を進めているなかで、例えば窪川中でやってくれているのが、クラブチャレンジです。窪川中に入学する前に、いろいろなクラブに体験入学する取組をしておりますし、川口小からも参加者がいました。</p> <p>宿泊学習の件ですが、いろいろな理由があると思います。例えば、外国語教育が入ってきてとか、いろいろな部分で授業時数がパンパンになってきて、そこまでちょっと手が回らなくなってきたり、それだけではありませんが、いろいろな理由があって、学校ではできることはやっておりますが、保護者の方に説明もさせていただきたいと思います。</p> <p>クラブチャレンジについて、町の方で保険も掛けて、中学校へ進学したらこんなクラブに入りたいよというクラブへ体験を事前にするということも、交流というか体験活動をしております。</p>
8	<p>昔、私たちが小学生の頃、わんぱく学校というのがあったのですが、現在もありますか。</p> <p>教育委員会の生涯学習課の事業として現在もわんぱく学校は行っております。今年度は4・5年生が室戸へ、6年生がふるさと学習ということで十和地域でキャンプをしたりといったことはしていますが、全員参加ではなく手あげ方式で行っておりますし、希望者が参加をするということです。年々子どもが減っているという状況で少し厳しくなっていますが、希望するお子さんは行けている状態です。</p> <p>確定ではありませんが、わんぱく学校は手あげ方式ですが、来年度から四万十川財団や四万十川対策室の方で手あげ方式で、青少年育成町民会議の方も手あげ方式で体験活動を行っておりますが、四万十町でも小学校に在籍しているうちに1回は、4年生になるか、5年生になるか、6年生になるかは分かりませんが、いま協議をしている途中ですので、1回は体験活動を四万十町内の児童が一堂に会して100人くらいになりますが、川の学習、川の体験を仕組んでいこうかなということで年内には話をまとめる方向で進めています。</p>
9	<p>私たちの頃もあって、手あげ方式でしたが、やっぱり行くことによって、よその学校の子と仲良くなったということもありましたし、子どもも川の遊びとか行かせていただいているんですが、昔ほど人がいないと感じます。ですので、5年生なら5年生全員でというのがあれば、より良いかなと思います。</p> <p style="text-align: center;">-</p>
10	<p>学童はどうなりますか。</p> <p>学童というか放課後子ども教室ですが、口神ノ川小が統合となったときにも、口神ノ川小体育館を利用して放課後子ども教室を行っているように希望者がいて開けれる環境であれば開くことも可能であると考えます。</p>
11	<p>窪川小には2つ放課後子ども教室があるのですか。</p> <p>窪川小には、うりぼうと放課後子ども教室がありまして、うりぼうについては人数的に結構いまして、いっぱいいっぱい状況です。放課後子ども教室についても狭い所で見ているので、なかなか不快な状況ですので、各地区の学校で放課後子ども教室の体制を取っていくというのも一つの課題にはなってくると思います。</p>
12	<p>口神ノ川ではしていて、丸山や若井川は、窪川小の方でということでしょうか。</p> <p>そうですね。地域の方で主体的にやっていただくということにしていますので、そういう環境が整うのか、ある一定人数が必要になってきますので、地域にそれだけの人数が揃うかどうかですね。</p>

No.	上段(質問等) / 下段(回答)
13	<p>川口小校区では、親御さんの中で農家の方が割と多いんですよ。窪川まで迎えに行ってしまうのが収穫時期でできないのでということもあると思いますので、ここが残せるのであれば残してもらいたいです。</p> <p>可能であると思います。</p>
14	<p>一定人数を集めるのは保護者が動かないといけないわけですよ。</p> <p>そうですね。</p>
15	<p>中学校の下校時刻をきちんと揃えることが必要ではないでしょうか。18時30分というのが決まっていますが、部活によっては18時30分以降もしていたり、18時30分前に終わって、朝はバスで行けても帰りはバスに乗れないとかということになると、小学校と中学校に子どもがいる場合、親は何回も迎えに行かなければならない状況になりかねないですよ。18時30分を過ぎて、自転車等で帰宅するならば街灯もないところを40分以上かけて帰宅しなければなりません。夜遅くなって帰宅するのを見ると怖いなど。なんで、中学校の部活の下校時刻はバラバラなんだろうと思います。迎えに行くと、知らない人が迎えに行っても分からないだろうなど、教員が前に出て確認して親の車に乗っているかを見ているわけでもないですから、小学校は額面通り、交通事故の危険性や誘拐の可能性については、ここに書いてある通りであると思いますが、小学校と中学校のギャップが激しいです。整合性を取ってほしいなと思います。</p> <p>下校のバスの時刻についてですが、ここ数年に限ったことではなく、何年も前からのことであると思います。その件につきましては対応中ですが、ひとつこの4月から部活動のガイドラインというのが示されまして、平日1日・休日1日を部活動の休曜日とするように定められています。窪川中では平日1日を水曜日としているところです。この3月までは水曜日15時に学校が終わって、自主練等の形で練習をしていたかと思いますが、それもダメになって速やかに帰宅することになっておりまして、15時に学校は終わるけれどもバスは17時までないとかいったケースが発生しまして、関係者と詰めて、11月よりバスの時刻を15時に合うように時刻変更を行ったりという対応をします。水曜日に早期に帰宅できないことが一番の課題であると教職員や生徒会の方からも要望があがっておりまして、対応させていただくところです。</p> <p>下校のバスの時刻の件につきましては、今後も引き続き対応しなければいけないことであると思います。</p>